

福岡県の主な農産物の生産状況

平成 29 年 7 月 14 日現在

(専技情報より抜粋)

◇早期水稲◇

4 月中下旬植えの出穂期は 7 月 8～15 日前後と平年並みです。稈長は平年よりやや短く、穂数は平年並み～やや多い。斑点米対策としてカメムシ類対策を徹底しましょう。出穂期前後は水を切らさないよう管理を行いましょ。

◇普通期水稲◇

6 月上中旬植え「夢つくし」は茎数が確保され、中干し時期に入っています。6 月下旬植えは田植え以降の日照不足のため徒長傾向です。一部で早植地域ではヒメトビウソによる縞葉枯病が発生し、平坦地ではスクミリンゴガイによる食害等が発生しています。現時点ではいもち病の発生は少ないです。6 月下旬植えは、茎数が確保され次第中干しを行いましょ。ウンカやいもち病等の対策を徹底しましょ。用水の確保が困難な場合は雨水がたまるように水尻を閉めておきましょ。

◇大豆◇

播種は梅雨の合間をぬって開始されました。7 月 10 日までの播種面積は 331ha (前年同期 535ha) です。播種後の出芽は播種直後に大雨にあった一部で出芽不良が発生していますが概ね順調です。天候が回復し次第速やかに播種し、適期播種に努めましょ。

◇夏秋ナス◇

雨よけ栽培では 6 月下旬の日照不足と着果負担の影響により、生育は軟弱傾向であり草勢も弱く、結実不良が発生しています。露地栽培では定植後から 6 月中旬にかけて乾燥傾向で推移したため、生育が少し遅れています。現在は一部で褐紋病などによる腐れ果が発生しています。雨よけ栽培では一部で灰色カビ病が発生しており、雨よけ、露地ともに青枯病、半身萎凋病が発生しています。草勢低下の場合は早めの収穫と不良果の摘果、肥料の葉面散布で回復を促しましょ。雨よけ栽培は換気によりハウス内の昇温を抑制しましょ。病害対策を徹底し、青枯病、半身萎凋病が発生した場合は栽培終了後土壤消毒を行いましょ。

◇イチジク◇

加温ハウスが出荷中です。6月までの高温乾燥傾向により、品質は概ね良好です。7月以降の寡日照により、着色や糖度はやや低下傾向です。なお、果実のかびや腐敗は少なく、病害虫はハダニ類が増加傾向です。無加温ハウス及び露地栽培の生育は前年よりやや遅く、無加温ハウスは7月中旬、露地栽培は8月条中旬から出荷を開始する見込みです。ハウス栽培では適期収穫及び鮮度保持管理に努めましょう。また、梅雨明け後はハウスの開放度を高め、温度上昇を抑制しましょう。誘引、副梢管理を徹底し、受光体制の改善に努めましょう。

◇トルコギキョウ◇

6月の出荷量は二度切り栽培が増えたため増加しています。現在夏季（6～9月）出荷作型の最盛期です。秋（10～11月）出荷作型では冷房育苗が順調に行われ、定植は7月下旬から順次開始されます。秋出荷作型では定植前から寒冷紗被覆等を行い、地温低下を図りましょう。定植後は抽台開始まで十分なかん水を行い、夜蛾類対策を徹底しましょう。

◇ホオズキ◇

降水量が少なく、草丈はやや短いですが、着果状況は良好です。出荷最盛期は実のみ出荷では7月下旬、実付き枝の出荷は7月末～8月初旬の見込みです。白絹病の発生が平年に比べて早く、多い状況です。摘心後の側枝は早めに除去し、排水対策及び白絹病、斑点細菌病対策を徹底しましょう。

◇肉用牛◇

枝肉単価は前年比を下回っていますが、過去5年平均比では100%を超える水準を継続しています。暑熱期かつ梅雨のため、送風や消毒等により疾病予防や健康管理を徹底しましょう。